



# (仮称)みやぎの将来ビジョン骨子(案)



---

平成18年9月 宮城県企画部政策課



## 骨子案の構成

第1章 みやぎの将来ビジョン策定にあたって  
(P1)

第2章 みやぎを取り巻く時代潮流と10年後のみやぎ  
(P2～8)

第3章 県政運営の理念と主な取組  
(P9～15)

第4章 みやぎの将来をつくる33のビジョン  
(P16～51)

( )内のページは骨子案本体のページを示す



## みやぎを取り巻く時代潮流と10年後のみやぎ

### 1) 少子高齢化の進展と人口減少

#### 【これまでのみやぎ】

- ・出生者数は昭和50年台当初から一貫して減少傾向。
- ・平成12年以降は社会動態においても減少している。
- ・県内の合計特殊出生率は平成17年で1.19と全国平均の1.25を下回っている。低下の傾向に歯止めがかかっていない。
- ・平成17年の国勢調査により宮城県の人口は初めて減少に転じた。仙台地域の人口も増加が鈍る。

#### 【今後10年間の主要な課題】

- ・人口減少と高齢化

	平成17年	平成28年	
県内人口	236万人	232万人	( 4万人)
0～14才	32万人	30万人	( 2万人)
15～64才	156万人	142万人	( 14万人)
65～	46万人	59万人	( +13万人)

- ・親となる世代が減少するため、避けられない少子化の進展。
- ・団塊世代など高齢者増加に対応する福祉サービス等の体制整備の推進。
- ・人口減少を抑制するための、県外流出口と出生率低下を食い止め。
- ・生産年齢人口の減少を補う、女性や高齢者、若年者の就業率の向上。
- ・コンパクトで機能的なまちへの転換，ユニバーサルデザインの推進。

## みやぎを取り巻く時代潮流と10年後のみやぎ

### 2) グローバル化・情報化の進展

#### 【これまでのみやぎ】

- ・県内空港，港湾からの輸出入の増加

	平成7年	平成17年	
輸出額	965億円	3,468億円	( 3.6倍)
輸入額	2,203億円	4,950億円	( 2.2倍)

- ・海外に進出している県内製造業 28社

- ・国際交流の推進

	平成6年	平成16年	
登録外国人数	9,563人	16,484人	( 1.7倍)
外国人宿泊客数	59,281人	93,621人	( 1.6倍)

- ・ブロードバンド契約数

	平成13年	平成16年	
ブロードバンド契約数	42,000件	297,000件	( 7.1倍)

#### 【今後10年間の主要な課題】

- ・情報の進展により，世界的な均質化が進む中で「みやぎらしさ」，「真に価値のあるもの」の発信の必要性。
- ・経済のグローバル化に対応し，東アジアをはじめとする市場開拓や新商品開発と，国際分業等に勝ち残るために県内企業の競争力の強化を図る。
- ・県内経済の活性化を目的とした，国内外からの企業誘致や投資の促進
- ・国際化の進展による感染症や国際テロに対応したリスク管理体制の確立
- ・地域と連携し，県内に住む外国人が快適に暮らせる地域社会の形成
- ・生活や産業面でのIT活用による新たな可能性の開拓

## みやぎを取り巻く時代潮流と10年後のみやぎ

### 3) 限りある資源・エネルギーと環境負荷の増大

#### 【これまでのみやぎ】

- ・ 経済発展と環境破壊
- ・ エネルギー消費増加，低いエネルギー自給率。
- ・ 廃棄物排出量の増加，最終処分場の不足。廃棄物不適切処理や不法投棄の増加。
- ・ 伊豆沼・内沼や松島湾などの閉鎖性水域の水質改善が進んでいない。

#### 【今後10年間の主要な課題】

- ・ 環境保全に対する事業者倫理の確立や県民一人ひとりの行動様式の変化を促し，経済発展と環境保全を両立する。
- ・ 持続可能な社会構築のため豊かな環境を次世代に引継ぐ。
- ・ 天然資源の浪費を抑制し，環境負荷を減らすため，廃棄物を出さない（リデュース），できるだけ再利用する（リユース），再び資源として再利用する（リサイクル）という3R（スーパール）の取組を進め，資源循環型社会を構築する。
- ・ 自然環境を適切に管理し，県民生活と環境との調和を図る。

## みやぎを取り巻く時代潮流と10年後のみやぎ

### 4) 地域間格差と地域生活の危機

#### 【これまでのみやぎ】

- ・ 東北地方では唯一，人口が増加していた本県であるが，今後本格的に人口減少社会，高齢化社会に突入する。
- ・ 県内各地から仙台地域への人口移動が続いたことにより，仙台以外の地域では，人口減少と高齢化が以前から進んでいた。
- ・ 人口減少と高齢化等により，地域の伝統的なコミュニティーの維持が困難になりつつある。
- ・ 県内における高速交通体系は整備されつつあるが，仙台地域とそれ以外の地域の格差は，所得，医療など依然として大きい。
- ・ その一方で，仙山交流など，県間のものや人の動きが活発化している。

#### 【今後10年間の主要な課題】

- ・ 仙台地域は，宮城県の発展を牽引する地域として，さらに東北地方の拠点としての機能を高めていく必要がある。
- ・ また，県内各地域において，それぞれの地域特性を生かした産業を興し，所得格差の縮小を目指す。
- ・ 医療，教育，生活交通，情報通信等の生活基盤を維持するため，地域内での拠点化，集約化，機能分担等進めるとともに，地域間連携も推進する。
- ・ 県内各地域がそれぞれの特徴を生かし，創意工夫による地域づくりを行い，地域間交流や都市との交流し，地域の活性化を図る。

## みやぎを取り巻く時代潮流と10年後のみやぎ

### 5) 変わる国のかたち, 地方のかたち

#### 【これまでのみやぎ】

- ・ 地方分権の推進や三位一体改革などにより, 国政の再編と県政の強化が進む。
- ・ 県内の市町村合併が進展し, 平成15年の71市町村から平成17年末には36市町村となった。
- ・ 市町村合併の進展に伴い, 県の広域自治体としての役割が見直され, さらに, 道州制などを含めた県のあり方に関する議論も高まりを見せる。

#### 【今後10年間の主要な課題】

- ・ 真の地方分権時代にふさわしい政策官庁を目指した行政改革
- ・ いわゆる「自助」を基本とし, NPOや企業なども包括する地域社会による「共助」, 行政による「公助」の各機能が協働して個人を支援していく。
- ・ 県は多様な公的サービスの提供に加え, 産業振興や社会状況の変化に柔軟で機動的に対応できるコーディネーターとしての機能も果たす。
- ・ 県と市町村のパートナーシップを構築し, 市町村の行財政基盤, 自立性, 専門性を強化し, 自らの責任と判断によるまちづくりを進める。
- ・ 適切な県民サービスと持続可能で安定的な財政運営を推進するため, 県政のスリム化と効率化を推進する。

## 県政運営の理念と主な取組

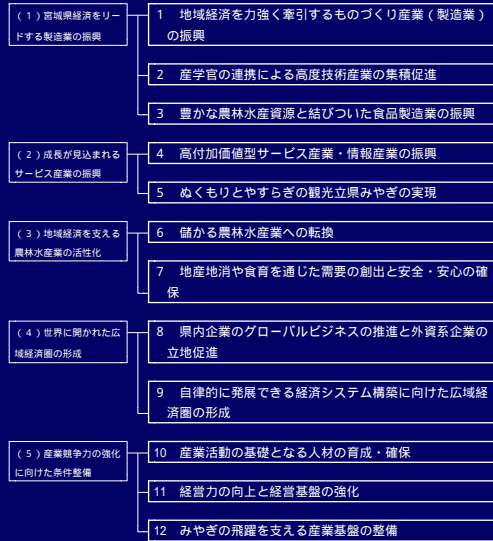
### 1 県政運営の理念

### 2 主な取組

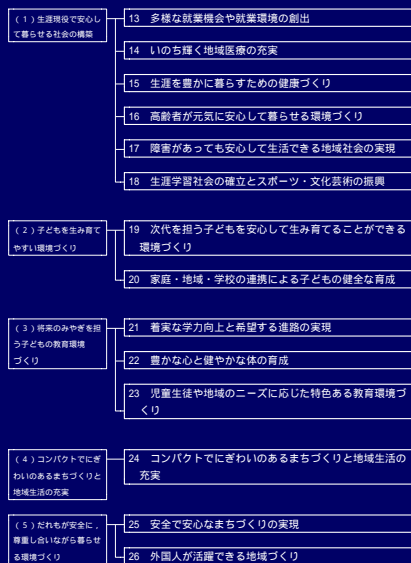
- 1) 自律的成長と富を生み出す経済基盤を確立する
  - ・ 宮城県経済をリードする製造業の振興
  - ・ 成長が見込まれるサービス産業の振興
  - ・ 地域経済を支える農林水産業の活性化
  - ・ 世界に開かれた広域経済圏の形成
  - ・ 産業競争力の強化に向けた条件整備
- 2) 生涯を安心して暮らせる地域社会をつくる
  - ・ 生涯現役で安心して暮らせる社会の構築
  - ・ 子どもを産み育てやすい環境づくり
  - ・ 将来のみやぎを担う子どもの教育環境づくり
  - ・ コンパクトでにぎわいのあるまちづくりと地域生活の充実
  - ・ だれもが安全に, 尊重し合いながら暮らせる環境づくり
- 3) 人と自然が調和した美しく安全な県土をつくる
  - ・ 経済, 社会の持続的発展と環境保全の両立
  - ・ 豊かな自然環境, 生活環境の保全
  - ・ 住民参画型の社会資本整備や良好な景観の形成
  - ・ 宮城県沖地震などの被害を最小限にする県土づくり

第4章 みやぎの未来をつくる33のビジョン

1 自律的成長と富を生み出す経済基盤を確立する



2 生涯を安心して暮らせる地域社会をつくる



3 人と自然が調和した美しく安全な県土をつくる

